

堀部安嗣さん、
登壇決定!!

堀部 安嗣(ほりべ やすし)
建築家。堀部安嗣建築設計事務所主宰。筑波大学芸術専門学群環境デザインコース卒業。「牛久のギャラリー」で第18回吉岡賞受賞。2017年建築学会賞受賞。著書「堀部安嗣作品集」(平凡社)他多数。

「定番」とは、 その工務店の顔を つくることだ。

開催地 静岡県浜松市～袋井市

町の工務店ネット全国総会 in 遠州

2019年 2 / 27(水)～28(木) 【参加費】30,000円／人(税別)*
*バス・資料・会場・懇親会・宿泊・講師・講師交通費等含

総会プログラム、固まる。

年末恒例のNHKの「紅白歌合戦」のプログラムは、後からサプライズ出演者が出てきますが、堀部さんの登壇は、別にそれを見習ったわけではありません。

堀部さんは、お金持ちの家でも、予算の厳しい仕事でも、同じ態度を貫きます。お金持ちに媚びず、予算が厳しいからといって決して手を抜きません。私は、神戸の住宅博で一緒に仕事をして、そうか堀部さんは、「定番の人」なのだと思います。
若い頃、肥前国佐賀、鍋島藩士による『葉隠聞書』に記された「武士道と云ふは死ぬ事と見つけたり」を読んで、とてもついていけないと感じましたが、この年になって、これは「覚悟を持って生きることと見つけたり」と、平易に解釈すればいいと考えたら、落ち着いて事に当たることができるようになりました。

「定番」とは、その工務店の生き方、コンセプト、考え方であり、「らしさ」と方法を見定めることです。そこがフラついているからトレン

ド(流行)ばかり追うようになり、各社のいいところ取りに走るのです。今回のプログラムは、「定番」を考える上で、これ以上ない講師が出揃いました。

堀部さんは、春に新潮社から『ベーシックハウス』の本を出されます。ベーシックを和訳すると「定番」です。

秋山東一さんが一貫して追われてきたのも「定番」です。半田雅俊さん、趙海光さんは工務店の取り組みと連なって、手頃な価格で求められる「定番」を追ってこられました。

村松篤さんは、一見「定番」から遠いところにいる建築家ですが、工務店時代、年間100軒を超えるプランをこなしてきた経験があり、「定番」に対し独自の考えを持っておられます。

大きいのは、今回は建築家の話というだけでなく、一緒に取り組んだ工務店との実践を踏まえたものということなのです。

分岐点に立っている業界にあって、自分の顔をしっかり持つことの重要性はいうを待ちません。総会で今後の指針を得ていただければ幸いです。

アントニン・レーモンドの「五つの原則」

ベーシックハウスを問題にしようとする、いつも語られてきた、アントニン・レーモンドが言ったという「五つの原則」が気になります。

①自然(Nature)

ナチュラルではなく、ネーチャー。大文字の自然。太陽とか、風とか、緑とか、大きな自然力を家に求めるべき。建築材料は親しみやすい、小文字の自然の素材がいい。

②単純(Simple)

西洋人のいう装飾とは反対に、日本にあるのは、必要が生み出した美である。すべてを取り去ったとき、残る本質と原理が、日本の家の魅力の源である。

③直截(Direct)

簡素で、飾りがなくて明快な家。自然は人工よりも美しい。簡素と軽快は複雑より美しい。節約は浪費よりも美しい結果を生む。

④正直(Honest)

着ぶくれした家ではなくて、正直で、律義で、さっぱりした家。構造自体が仕上げであり、同時に唯一の飾り。キノコや木のように、大地から生まれた家。

⑤経済(Economy)

経済性とは、決して安くつくることではない。何事もムダにしないということだ。値段の高い器具だから「高級」ではない。本質を見極めることが、ほんとうの高級。

しかし、レーモンドのどの著書を開いても、これらの言葉は見つかりません。レーモンド事務所において、彼が若い弟子たちに語っていたというのが定説ですが、これらは今でもベーシックハウスの要諦です。

というより、いよいよこの「五つの原則」に従った設計が求められるようになった、と言って過言ではないでしょう。

日本の住宅は、「自然をいつくしみ、故に日本の住宅は、自然の形の進化に似ている。」「日本の気象の烈しさは格別である。強い風、ひどい雨、寒さ、焼けつく太陽、地震、台風、それらは物の脆さを人々に教える。」「自然は人工より美しい。単純さと軽快さは複雑なものよりも美しい。建物の広さにしても、材料にしても、節約は浪費よりも美しい結果を生む。」アントニン・レーモンド著「私と日本建築(SD選書)より

このレーモンドの「五つの原則」は、文言の出自が曖昧ということもあって、デタラメが横行しています。自然はナチュラルと表記され五番目に出ているものがあつたりします。レーモンドの他の本を読めばわかることですが、自然はナチュラルではなくて、ネイチャーです。大きな自然をレーモンドは問題にしたのでした。



レーモンドとノエミ夫人



レーモンド自邸の写し住宅(高崎市)



軽井沢のアントニン・レーモンド新スタジオの外観と室内



2/27(水)

12:30 JR浜松駅北口・遠鉄百貨店南側／バンビツアー乗り場 集合・出発 *新幹線改札口より、徒歩 3分 程となります。

建物見学

バスにて「Sukura大久保」、「浜松・夢双庵」、「びおハウスH(構造)」、「FUKUROI FOREST HOUSE」の4つの建物を見学します。

16:45 ホテル到着



Sukura大久保



Sukura大久保



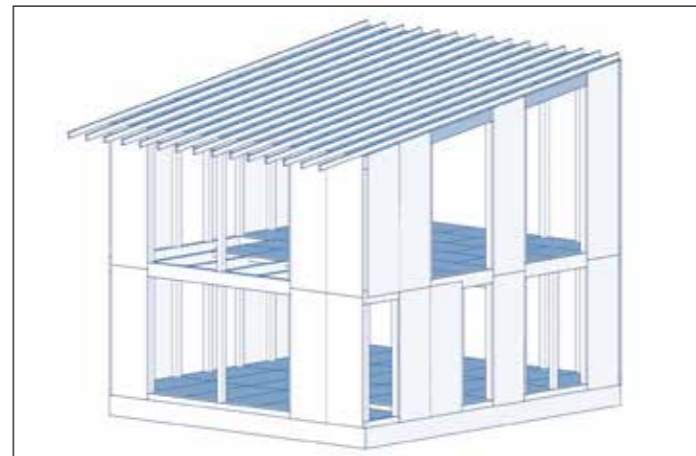
FUKUROI FOREST HOUSE



FUKUROI FOREST HOUSE



浜松・夢双庵



びおハウスH(構造)

2/27(水)

17:10 総会開始 「定番」とは、その工務店の顔をつくることだ。

ご挨拶・報告／町の工務店ネット 代表：小池一三



小池 一三(こいけ いちろう)
一般社団法人 町の工務店ネット代表理事、手の物語り有限会社代表取締役。パッシブソーラーの普及に寄与。その功績により、2005年「愛・地球博」で「地球を愛する世界の100人」に選ばれる。

17:40 講演／建築家・堀部安嗣



代表取締役社長 菅 徹夫

19:00 懇親会 「うちの定番」／菅組

21:00 終了

2/28(木)

9:00 「うちの定番」各社発表

【 創 建 】
代表取締役社長 有村忠一



行政と民間の新たな協働のとりくみ、「借り上げ型公営賃貸住宅」でねらったこと。35年700棟の実績を通して培った定番を活かす。

【小弁野工務店】
小辨野 聖也



積極的な太陽熱利用を定番に。火の国・九州は宮崎からの報告。

【滝口建築】
代表取締役 滝口伸一



継続して取り組んでいる現代町家・富士町家の流れから、田園居住の町角を実現させることができそうです。気になるプランは……。

【グートンライフ】
代表取締役社長 出口光生



今回、懇意にしている地主さんより分譲地のお話をいただき、びおハウスHによる町角づくりに挑戦することを決断しました。

【ミズタホーム】
代表取締役 水田和弘



先日まで冬眠していたとおっしゃる水田さん。地震の傷跡が癒えない熊本で、水田さんがあらたに作ったコミュニティスペースの話をお聞き。

10:45 休憩

11:00 「実績を重ねて」①／【水崎建築】＋【建築家・村松篤】



代表取締役 水崎隆司



村松 篤(むらまつ あつし)
建築家。村松篤設計事務所主宰。心地よい空間で長く愛着が持てる住宅を基本に据え、最近では、保育園や森林施設などの施設建築も手がける。日本建築学会東海賞など受賞。

11:30 「実績を重ねて」②／【造居】＋【建築家・半田雅俊】



代表取締役 小澤典良



半田 雅俊(はんだ まさとし)
建築家。半田雅俊設計事務所主宰。工学院大学建築学部卒業。逸藤楽創作所を経て、フランク・ロイド・ライトのタリアセンにて学ぶ。スタンダードハウス「びおハウスH」に取り組む。

12:00 昼食

13:00 「実績を重ねて」③／【伊神建設】＋【建築家・趙海光】



代表取締役 伊神 斉



趙 海光(ちょう うみひこ)
建築家。ぶらんにじゅういち主宰。法政大学建築学科卒業。国産材を用いた現代型の設計に力を注ぎ、「現代町家」の設計を提唱。編著書に「高山建築学校伝説」鹿島出版会発行。

13:30 「実績を重ねて」④／【入政建築】＋【建築家・秋山東一】



代表取締役 新野達治



秋山 東一(あきやま とういち)
建築家。ランドシップ主宰。東京藝術大学美術学部建築科を卒業。フォルクスハウスの設計者として知られる。近年は、そのメソッドを後進に伝える活動も行っている。

14:00 町エネットからの報告～田園居住の動き、他

14:30 終了



削いで、削いで、
削いだのでしょね。
余分なものがなく、
静謐とは、
こういう空間を
いろいろでしょね。



今回見学する 建物の一つ **夢双庵**【むそうあん】

無双ではなくて「夢双」なのです。無双は「天下無双の剣」に見られるように、比べるものがない唯一無二の存在を意味します。それに対して「夢双」は、夫婦二人の夢を言うそうです。このネーミングは、村松篤のやさしさと、相棒である水崎隆司の大工仕事に一貫して流れるものです。この仕事を見た私は、疑う余地のない二人の「定番」を見たのでした。この住まいについて、その是非を含め、総会の夜、夜が更けるまで語り合うメンバーの顔が思い浮かびます。

小池一三

総会では、目下、大奮闘中の「田園居住」についても現状報告します。

なぜ、田園居住か、？

工務店は、「土地があれば決まる」と言います。それなら、郊外に目を向ければいい。

工務店はみんな、口を開けば「家を建てる土地がない。あれば決まる」と言います。土地は今も、工務店の大きな悩みです。

今年の年賀状に「ちょっとびり郊外」に目を向けようというメッセージをお送りしました。町工ネット代表小池は各地を奔走し、官庁に乗り込み、田園居住のケース・スタディ実現に、懸命に取り組んでいます。総会にて近況報告を予定していますが、まず当ニュースにて、その一端をレポートしてもらいます。

取り急ぎの小池報告

1) 田園居住と定借方式

田園居住に、一番関心が高い自治体は、移住・定住促進をテーマに掲げる自治体です。「土地はタダで出してもいい」という話まで飛び出しています。「タダで出すと固定資産税評価額が下がりますよ」というと、「そうだよなあ」と溜息がでます。

移住・定住促進をはかる自治体は、人口減・人口流出を抱えています。医療・学校・福祉施設の保持をはかるため、何とか人口減を食い止めたいのです。

土地価格が安いので、土地を買ってまで移住してくる人はわずかです。それなら定借で貸したらどうですかという「定借は都市部の話、150坪の土地を300万円で買えるところややる人がいない」と言います。確かに、田園居住での定借は現実的ではありません。にも関わらず、この話をもち出すのは、従来のな宅造分譲を避けたいからです。

2) 「建物譲渡特約付」方式というやり方

そこで私は、限界集落化が言われる自治体が行なっている「建物

譲渡特約」方式に注目しました。この方式は、定められた期間(20~30年)借地料を支払うと、経過後、無償で譲渡される特約を付けられる、というやり方です。大分県の臼杵市、島根県の津和野町などで実施されていて、めずらしいやり方ではありませんが、それを都市近郊の田園居住に合ったやり方にしたらどうか、と考えました。

定借は、期間終了後、地主に土地を戻すことが基本の法律で、住宅地の場合は期間が50年以上と長く、50年間支払って、建物を解体して返すことに抵抗を感じる人が少なくありません。

今回のやり方は、普通の借地契約であり、期間設定は自由です。この方式で計算すると、仮に100坪の土地を購入した場合、坪平均28,000円として、 $28,000 \times 100 = 2,800,000$ 円となります。借地の場合、1平米あたり36円/月とし、20年とすると $36 \times 330.5 \times 12 \times 20 = 2,855,520$ 円なので、だいたい同額で収まります。

ユーザーにとっては、土地代を住宅ローンで購入すると有利子であるのに対し、無利子、土地の固定資産税なしなので、その分、購入するより減額されます。また、行政にとっては、移住よりも難しい定住促進の決定的施策となります。さらに工務店にとっては、土地代のユーザー負担が軽くなる分、建築費に予算を回してもらえます。



3) 「建物譲渡特約付」方式が成功しない理由

三方にいい方式なのに、未だ大成功という話を聞きません。その理由として挙げられるのは、

- ① 行政による土地計画の画一性
 - ② それは建物のクオリティ保持についても言える
 - ③ 購入動機が土地の安さにあるため、概して購入者の質が低いことなどが挙げられます。生まれたものに魅力がなければ、購入応募者が減ります。この悪循環が繰り返されているわけです。
- 行政と踏み込んだ話し合いを進める中でわかったことは、行政は、行政が負うべき責任の範囲を明確にしてほしいという要望をつよく持っていることでした。そこで私は、行政に対しては、土地にしばって話を持ち込むようにしました。行政に土地を確保してもらい(彼らは素地価格で土地を購入できます)、土地計画と建物の

クオリティを確保し、また、住宅博などの運用・主管を当方が担う、という関係提示提携・連携のカチです。

行政とウィンウィンの関係を構築することが大事で、行政による土地という信頼性、選ばれた工務店という信用性、加えて企画費や宣伝費も出てきますので、悪くはないのですが、根本に田園居住の考え方と方法がなければ、魅力あるものになりません。この点、われわれは里山住宅博の経験があり、趙海光さんの著作があり、実践塾で身につけたノウハウがあります。

この方法は、「ちょっとびり郊外」といえる土地を、どう選ぶかがポイントです。土地価格・土地の人気度を評価し、少し不便だけど、といったマイナス点をプラスに転じさせ、「見え方・納得される理由」を明確にすることが大切です。

あちらこちらで企画が進んでいますので、町工ネットにご相談ください。また、今度の総会がその情報交換の場になれば幸いです。